

「請負」「派遣」も立派な労働者

「劣悪な処遇を何とかしたい」と派遣労働者、請負労働者の仲間が労働組合を結成し、要求実現のたたかいに立ち上がってきています。



徳島県の光洋シーリングテクノ（560人の労働者のうち125人が「請負」労働者）で働く「請負」の労働者が、「社員には負けられない」とがんばってきたのに報われないとして組合を結成し、賃上げ交渉で時給のアップを実現しました。愛知県の高木工業（派遣社員数1万人）では、派遣労働者が組合を結成し、「一方的な通告による労働条件の引き下げはできないはず」と就業規則を開示させ、「有給休暇の取得」や「能率手当引き下げ撤回」の成果を上げてきました。

働く仲間が団結して要求の実現を

いま、派遣・請負など非正規労働者は、企業における補助的な労働ではなくその中枢部を担っているのです。正社員と同じ仕事を正社員以上にがんばっても賃金は、正社員の半分以上です。このような労働者を放置しては、正社員の雇用や賃金を確保するたたかいも困難になります。正社員と非正規労働者が力を合わせてたたかってこそ、働く者全体の向上につながります。

世界のメーデーはこうして始まった

～8時間は働き、8時間は休み、8時間は自由～

1886年(明治19年)5月1日、アメリカ各地で8時間労働制を求め、35万人がストライキに立ちあがりました。当時は、12時間から14時間労働は当たり前。「8時間は労働、8時間は眠り、8時間は自由な時間」で暮らすことが労働者の夢であり要求でした。4年後の1890年5月1日、再度ゼネストを構えたアメリカの労働者のたたかいにヨーロッパが応え世界的な労働者の祭典としてメーデーが誕生しました。

日本では、「8時間労働時間制実現」、「失業防止」、などの要求を掲げ、1920年(大正9年)5月2日の日曜日に上野公園で初めて開催されました。

目立悲 掲示板

新入社員へ “組合加入よびかけ”

(株)日立ビルシステムは、新入社員教育を東京の亀有にある研修センターで、毎年4月はじめに行っています。私達、建交労HBS労働組合はこの機会を利用して組合加入のよびかけを門前でしています。職場には、第二組合の「日立ビルシステム労働組合」があります。こちらは研修センター内で加入のよびかけをしています。会社が便宜をはかるので、できるのです。新入社員はまず「職場には組合間差別がある」と教育される結果になります。

(建交労HBS)

総合職5級で、 “年間45万円も減額!”

(電力)業績改善対策で、春闘後に調整するとしていた一時金の減額について、労組本部から最終結論が提示されました。組合執行部は、「組合員平均で昨年度比約3%、数万円の減額水準であり、生計費相当額を確保することができた」と説明しています。

しかし、今年の春闘妥結月数比では平均12・4%の減額です。減額は、職群等級により一律の定額ですが、総合職5級は平均を大幅に越える45万円/年という大幅減額となっています。職場では、「これ家を建てる機会が遠のいた」「S5のレンジ下部の者とS6のレンジ上位の者で支給額が逆転するのはおかしい」「ぎりぎりでローンを組んでいる人は、二重のローンを組むことになりかねない」などの怒りと不安の声。

(日立事業所)

制度一元化に “不安と不満が”

4月からルネサスの制度一元化が始まりました。今年の春闘は、賃金制度が変わっても



昨年の賃金相当のところに格付けされただけで賃金の額は同じ。今までは、たとえばベーシックアップはなくても基本給のアップはあったのに。ボーナスは個人業績加算がどのようにつくのかにより昨年より少ないことにもなりかねません。また、監督職群3級は基幹職群2級より2万7千円しか多くありません。「基幹職なら交替勤務をやれば手当てが入

人の命より “無災害記録とは”

(ルネサス武蔵)

人の命より、無災害記録に執着する会社に不安と不満の声。仕事中に病で突然倒れても、大怪我をしても、会社は救急車を呼ぼうとはせず公用車で病院に運ぶ手はずをする。「素人判断で、公用車で病院に運ばれては助かる命も助からないのでは」と、働いている人達の間でヒソヒソ話。「ここで骨を埋める気はないから救急車を呼べ」と叫び声こだまします…。

(日立IEシステム)

本体に戻るのも “複雑な気持ち”

HESCOの子会社へのヘステクサービスが6月にHESCO本体に合併します。5年前に分社化してヘステクサービスをつくった時は、「HESCOグループとしての雇用確保の施策である」と説明しました。ところが5年

合併は、「両社一体での人材の活用、コスト低減が目的で日立の方針に沿ったもの」とのことです。親会社の都合で分社化だ、合併だと振り回され、組合も出たり入ったりで分社化時に組合費を清算して記念品をもらい、退職金までもらいました。職場では、「分社化時に悔しい思いをしたが、人も減り、ヘステクサービスの役割は終わったということか」と複雑な気持ちです。

(HESCO)

特急利用の通勤を “定年まで許可して”

今年3月に、機械研究所(機研)が土浦から勝田に移転しました。(機研)が土浦に来てから30年経つことから、柏から土浦の間で持ち家した人が多く、1時間半の乗車時間は大変です。単身赴任するほどの距離でもないため、特急利用が許可されました。「3割の自己負担だが、1時間着くのでかなり楽だね。しかし、1年間のみの許可となっているの、新幹線利用のように全社的な許可にしてもいい」と話していました。

(機研)

